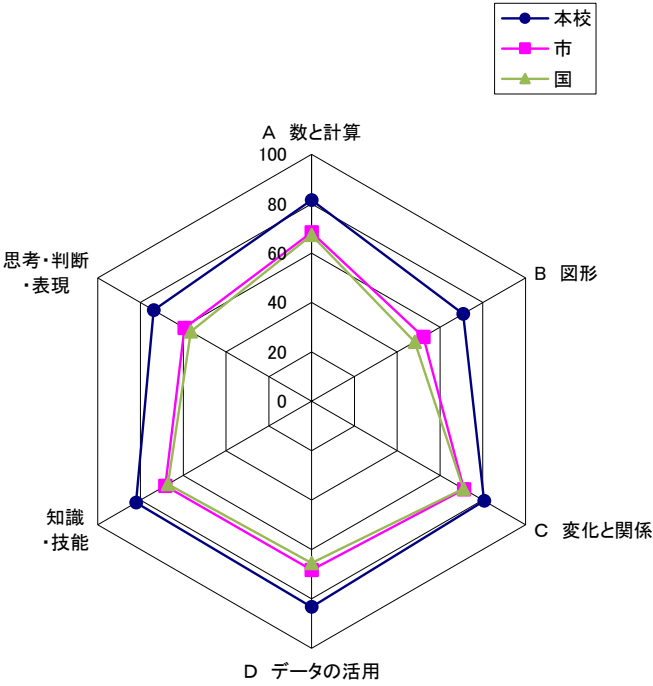


宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	81.5	68.4	67.3
	B 図形	70.8	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	80.6	71.2	70.9
	D データの活用	83.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	82.1	68.4	67.2
	思考・判断・表現	73.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市より13.1ポイント、国より14.2ポイント高い。 ○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算を行う問題では、正答率が94.4%と9割を越え、国より13.6ポイント高い。 ●(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題では、正答率は国より19.1ポイント上回ってはいるが、66.7%と7割に満たない。	・除法の筆算の手順について、各段階ごとに行っている計算の意味を説明することができるようにする。除法の基本的な考え方とつなげながら、一の位と十の位の数字を図に表すなど、理解しやすいように指導を工夫する。
B 図形	平均正答率は、市より18.6ポイント、国より22.6ポイント高い。 ○正方形の意味や性質について理解し図形の名前を答える問題では、正答率が94.4%と9割を越え、国より7.2ポイント高い。 ●高さが等しい三角形の底辺と面積の関係について分かることを選び、その理由を記述する問題では、正答率は国より34.8ポイント上回っているが、55.6%と6割に満たない。	・三角形の面積の求め方を再度確認し、公式の意味を理解させた上で、公式を用いて面積を求められるように指導する。 ・底辺や高さや面積との関係について正しく理解できるようにする。三角形を比較しながら、見た目の形にとらわれず、底辺と高さを基に面積の大小を正しく判断できるようにする。 ・三角形の面積の大小について、底辺や高さに着目して、言葉で説明することができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市より9.4ポイント、国より9.7ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数を記入する問題では、正答率が94.4%と9割を越え、国より5.9ポイント高い。 ●示された基準量と比較量から、指定された割合になるものを選ぶ問題では、正答率は国より15.1ポイント上回っているが、61.1%と6割にとどまっている。	・百分率で表された割合の意味について再度確認し、小数で表したり、基準量と比較量から正しく割合を求めたりできるようにする。
D データの活用	平均正答率は、市より15.0ポイント、国より17.8ポイント高い。 ○二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題では、正答率は83.3%と8割を越え、国より18.7ポイント高い。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題では、正答率は国より21.6ポイント上回っているが、77.8%にとどまり無回答率も11.1%と高い。	・棒グラフの表す意味や読み取り方を再度確認し、2つのグラフを比較しながら違いを読み取れるように、グラフのどの部分に着目すればよいのかを視覚的に表示するなど、工夫して指導を行っていく。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み取り方を、段階を追って読み取れるように、視覚的な表示の仕方を工夫する。 ・グラフから読み取ったことを、言葉や数字を用いて説明できるように、グループの中で説明し合うなど、学習の形態を工夫する。